

NEWS LETTER



Vol.2



日本は自然災害が多い国と言われます。福島県で生活する外国人は必要な知識を得ることで、最低限の安全を確保することができます。今回は、災害への備えとして、各地の協働パートナーが取り組む外国人向けの各講座について紹介します！



会津坂下町国際交流協会 & (公財)福島県国際交流協会

講座

会津坂下町に住んでいる外国人を対象とした生活オリエンテーション(防火)講座を開催しました。講師の佐藤美華先生(インターカルト日本語学校福島サテライト)から火災発生時に使う日本語を教えていただき、実際に119番へ通報する訓練を行いました。また、消火器噴霧訓練や火事で家等に閉じ込められた時に煙から逃げる練習、消防車と救急車の車両見学を行いました。参加者は火事が起きた時の行動について理解を深めました。(11月26日(日)、会津坂下消防署)

※講座の様子は県政広報テレビ番組『おしえてキビタン!』(福島中央テレビ)で12.23にOA予定です。

(公財)いわき市国際交流協会 & 日本赤十字社福島県支部

講座

いわき市国際交流協会が開催している日本語教室後期クラスの最終日は、災害への備えとして非常食づくりと災害時に使える日本語を勉強しました。日本赤十字社福島県支部の方が講師となり、外国人14名が4つのテーブルに分かれハイゼックス袋やアイラップを使って調理する簡単カレーや蒸しパンを作りました。また、「世界の地震の10%は日本で起きている」との講師の言葉もあり、地震が起きた時の行動について教えていただきました。9月にいわき市で起きた水害の話にうなずきながら真剣に聞いている姿も見られました。(11月26日(日)、いわき市文化センター)



第1回「外国人のための日本語スピーチコンテスト」

10月28日(土)、とうほう・みんなの文化センター

(公財)福島県国際交流協会

&

郡山市国際交流協会、会津若松市国際交流協会、福島民友新聞社、
福島信用金庫、インターカルト日本語学校日本語教員養成研究所福島サテライト

イベント

県内3会場で予選を行い、9か国16名が出場する「外国人のための日本語スピーチコンテスト」を開催しました。このコンテストは日本語の文法や語彙よりも外国人の皆さんが普段思っている事や言いたい事を日本語で伝えることができるかが重要です。舞台裏では緊張した面持ちでスピーチを練習する姿が見られました。一方で同世代や同国の出場者同士が交流する様子、出場者とコンテストに関わった日本人と一緒に写真を撮る場面も見られ、お互いに日本語(やさしい日本語)や英語でコミュニケーションをとっていました。スピーチ以外では、福島県立福島高等学校「やさしい日本語広め隊」の3名によるやさしい日本語クイズ大会が開催されました。3名は「やさしい日本語」の取材のために当協会を訪問したことが縁となり、「やさしい日本語」を普及するために自分たちができる行動のひとつとしてぜひやりたいと協力を申し出た意欲的な学生です。避難場所と避難所の違い等、自分たちで問題や構成を考えて進行していました。観客の方々も手を挙げて答え、積極的に参加していました。



災害の時につかう日本語の言い換え(例)

消火	ひを け します
断水	みずが 出 ません
防災	じしん、つなみ、つよ あめ 地震、津波、強い雨などから いえ じぶん まも 家や 自分を 守ること
救急車	びょうき けがをした人 を 運ぶ くるま 病気や けがをした人 を 運ぶ くるま

「やさしい日本語」に
正解はありません。
相手に伝わるまで
言い換えます



編集後記

スピーチコンテストが終了して思ったことは、皆様の善意と協力があったからこそ開催できたということ。資金不足、担当Fの入院等々、最初から困難なことばかり。奇跡が積み重なって形になったコンテストでした。御協賛いただいた皆様、予選会や本選の運営に関わっていただいた皆様、そして「コンテストに出てみたい!」と応募してくださった外国人の皆様、本当にありがとうございました!

公益財団法人福島県国際交流協会

〒960-8103 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階

TEL 024-524-1315 E-Mail lasanichi-f@worldvillage.org (やさしい日本語担当)

